

## 「声」と出逢いなおす物語

### － “声優”を志す若者たちの語りから「声」の多様性を探る－

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
近藤 優佳

声は他者のみならず，“わたし”自身を理解するうえで非常に貴重な情報源となり得る。本研究では、日常場面でごく自然に扱われる声に焦点を当て、「声」と“わたし”の関係性を明らかにしていく。この「声」をとらえなおす作業を通して今まであまり意識されてこなかった「声」がもつ多様性と出逢いなおすことが本研究の目的である。

研究対象は，“声優”を志し専門的な訓練を受けている／受けていたことのある10代～30代の男女4名である。研究方法は、筆者もその当事者であることを活かし語り合い法を実施した。得られた発話資料をKJ法によって分析し、研究協力者それぞれが抱えている「声」にまつわるテーマを抽出した。

その結果，“声優”を志す若者に共通する「声」のテーマが明らかとなった。それは、無自覚な「声」・人の「声」を拾う性質・出発点ではない“声優”・“選ばれない自分”への葛藤・自分の「声」への納得・まわり道の選択の6つである。

これらの「声」のテーマから，“わたし”が「声」の多様性と出逢いなおすにあたり重要な4点を見出した。それは、①声への無自覚 ②他者の存在の重要性 ③声の超越性 ④底つき体験を経た「声」の自己受容である。

以上より，“声優”を志す若者にとって「声」の受容は“わたし”自身への受容に繋がることが示唆された。「声」と出逢いなおす体験は「声」の新たな可能性を見出し、「声」とともに“わたし”自身をも変化させていくのである。